

令和元年度（2019年度）第3回 函館市観光アドバイザー会議 会議録（要旨）	
開催日時	令和元年（2019年）10月17日（水）17:00～18:05
開催場所	函館市役所 本庁舎7階 特別委員会室
出席委員	奥平座長，池ノ上委員，角委員，藤原委員，渡部委員，高橋委員
欠席委員	斎藤委員，渡邊委員，佐々木委員，飯野委員，吉村委員
事務局	観光部長，観光部次長，観光企画課長，国際観光課長， 企画担当主査，企画担当2名

1. 開会

開会 (事務局)	開会
開会挨拶 (座長)	挨拶

2. 議題

(1) 報告事項

①函館市観光基本計画中間評価報告書（案）について

・資料 1：函館市観光基本計画2014-2023中間評価報告書（案）

(事務局)	(資料に沿って説明)
(奥平座長)	函館市観光アドバイザー会議の総意として取りまとめられた内容だが，質問や意見等はあるか。 【意見等なし】
(奥平座長)	それでは，中間評価報告書（案）については，アドバイザー会議として確認し，次の議案としてお諮りした提言を記載することにより，函館市観光アドバイザー会議による「函館市観光基本計画2014-2023中間評価報告書」とすることで良いか。 【一同了承】

②函館市観光基本計画中間評価における次期計画策定提言案について

(事務局)	4点の提言を頂戴しており、1点ずつお諮りいただきたい。 (資料に沿って1点目の提言を説明)
(奥平座長)	1点目の提言について、質問や意見等はあるか。
(角委員)	観光入込客数は多いほど良い、というのは大前提として正しいのか。
(事務局)	観光入込客数が多ければ比例して経済効果も発現されるという考えで、多い方が良いのではないか。
(事務局： 観光部長)	ただし、全国の観光地でオーバーツーリズムが問題になっていることから、観光入込客数には適正值がある。そのため、観光消費額の増加と適正な数で観光客に満足してもらう視点も必要だと思う。
(角委員)	適正な数というのは何らかの根拠で計算等をしているのか。
(事務局： 観光部長)	交通機関別の来訪人数や宿泊施設、観光施設の利用者数等で計算することはできる。
(角委員)	連続性や持続性を考えると、観光客の入込客数が大きく上下するよりかは。
(事務局： 観光部長)	平準化されていた方が良い。
(角委員)	その方が良い。ここで掲げた目標は、交通機関や宿泊施設の整備等の目安の一つになるように我々は考えるべきだと思うと、観光入込客数は多ければ多いほど良いわけではなく、適正な数を裏付けを持ちながら定義すべきかと思う。適正な数の算出はこれからになるのか。誰も計算してみたことはないということか。
(池ノ上委員)	全国でそれを明らかにした研究や地域の取り組みはまだはっきりしたものはなく、世界的にもないかもしれない。もし、函館が取り組むのであれば最先端だと思うし、本来はその考え方がとても大切だと思う。例えば、観光庁や道庁では観光入込客数を基準にした指標を基本的には求めておらず、延べ宿泊客数や観光消費額、経済波及効果を指標にしていくこととなっている。さらにその先にサステナビリティがあるかもしれない。
(角委員)	数字の裏の説明を詳細化していく態度が大事ということか。

(奥平座長)	そうである。
(池ノ上委員)	600万人を目指さないといけない根拠を明かにした方が良いということである。
(角委員)	600万人までは適正で、オーバーキャパシティにはならないのか。適正な範囲で目標を示すなら良いが、もし適正な範囲を超えている認識があれば、さらに大きな数字を示すのは空々しくなってしまうだろう。
(奥平座長)	宿泊のキャパシティで言えば、現状で600万人だと泊まりきれない可能性が高い。今後ホテルの新設が増えるので、もしかすると600万人でも大丈夫になるというくらいである。
(角委員)	もしも、この数字が一人歩きをしてしまい、例えばこの数字を裏付けとして宿泊施設を増やしたことが長い目で見て函館にとって不幸な結果になってしまったとすると、こういう数字を出したのが悪影響を及ぼすということになると良くない。
(奥平座長)	550万人の維持を高らかに謳うということか。
(角委員)	どの程度が適正なのか。
(奥平座長)	そうだと、550万人より500万人でも良い位かもしれない。達成可能な数字の方が誰もが納得できるし、経済効果もある程度あり、オーバーツーリズム対策にもなるかもしれない。 オーバーツーリズムで怖いことは人手不足である。今後宿泊施設が増えていくと、宿泊施設が成り立たない程人が足りない状況になるかもしれないので、果たして宿泊施設が全て機能するのか、機能しなかった場合はどうなるかというところまで想定して考えると、観光入込客数を大きな数字にするのか小さな数字にするのか委員の皆様と議論をしても良いと思っている。現計画策定時には、観光入込客数はもっと大きな数字だったが、徐々に下がり、最終的に550万人で落ち着いた経緯がある。今回は550万人からどうするかを考えた方が良いのかもしれない。上を目指すのか、現状維持か、それとも減らすのか、様々な考え方があってと思うので、皆様からご意見を頂戴したい。
(池ノ上委員)	根拠がない。むしろ適正値を模索しないとイケないかもしれない。
(藤原委員)	肌感覚で言えば、今のところ函館はオーバーツーリズムに至っていないと思う。オーバーツーリズムの典型はバルセロナだと思うが、実際

	<p>に行ってみると本当に悲惨である。京都もなかなか厳しい。それに比べると函館は非常に平和なので、550万人位が来て平和ということは、600万人はあながち間違いではない気がする。</p>
(奥平座長)	<p>現状から考えると、500万人よりかは550万人を推したいということか。</p>
(藤原委員)	<p>そうである。</p>
(奥平座長)	<p>観光入込客数が560万人を記録したときは、オーバーツーリズムではないが、宿泊施設が満室で宿泊できない現象が起きた。一步間違えるとオーバーツーリズムになりかねなかった部分で数字を考えると、560万人が一つの目安になるのかなと思う。</p>
(高橋委員)	<p>観光入込客数550万人というのは、宿泊人数を想定しているのか。</p>
(事務局)	<p>日帰りも含めて1年間の数字である。閑散期と繁忙期が混在した年間の計なので、閑散期に観光客にきてもらえるような施策を三次元的に考えることも含めて判断しなくてはいけないと思っている。</p>
(高橋委員)	<p>時期的なものもあると思う。集中する時期があると大変になるだろう。善意通訳会ではクルーズ船乗客の対応が多い。クルーズ船乗客は宿泊しない。かなりの数が来ているが、そういう面では問題にならないかと思う。</p>
(角委員)	<p>時期の集中を避け、閑散期の開拓を目指すことで、総合的には600万人を目指す姿勢はあり得ることか。</p>
(奥平座長)	<p>そうである。閑散期の部分がどこまで伸びるかが今後課題になるかもしれない。そのため、閑散期について提言に盛り込んでも良いかと思う。閑散期を増やすことで600万人を目指すという表現の方がわかりやすいかもしれない。閑散期に600万人を目指すような施策をこれから検討していく必要があるというような表現が最も良いかと思うが、皆様いかがか。</p>
	<p>【一同了承】</p>
(事務局)	<p>それでは、内容の部分で「観光客の誘客姿勢としては」のところに「閑散期を含め、600万人をも目指す姿勢」を追記する形ではいかがか。</p>

(奥平座長)	ただいまの内容で良いか。
	【一同了承】
(奥平座長)	それでは、1点目についてはただ今の表現で中間評価報告書に記載する。 続いて、2点目の説明をお願いしたい。
(事務局)	(資料に沿って2点目の提言案を説明)
(奥平座長)	2点目の提言について、質問やご意見等はあるか。
(池ノ上委員)	計画論は現在、様々な方法が模索されている。ただし、5W1Hで考えるということが基本で、普遍的である。この観光基本計画を見ていて最も足りないと思うのは、WhoとHowの部分である。基本計画なので誰がどのようにやるかは具体的に書かないのがこれまでのやり方であるために書いていないのかもしれない。しっかりとアクションプランでどのように実行するのか、誰が行うのかという部分をもう少し議論して作るべきではないか。
(奥平座長)	誰が、どのようにという部分は基本計画にはなく、今後検討すべきではないかということで提言に盛り込むべきだと池ノ上委員からの意見である。この2つの部分は当然大事だと思うので、盛り込むべきかと思うがいかがか。
	【一同了承】
(奥平座長)	観光基本計画のスパンの問題もあると思う。前回の計画も前々回の計画も10年のスパンだったと思う。このスパンが本当に良いのかを提言に含めても良いかと思う。10年経つと時代がまったく変わっている可能性もある。特に情報社会が進んだ現在は、1、2年で変わってしまう可能性もある時代である。例えば、10年スパンで計画を策定したとしたら、状況に応じて柔軟に対応できるようなやり方を考えるといった内容を盛り込んでも良いかと思う。
(事務局)	それでは、内容の部分で最後の結びの次に、「また、基本計画の計画スパンについても状況に応じた柔軟な運用を図られたい。」と追記するのはいかがか。
(奥平座長)	ただいまの内容で良いか。

	<p>【一同了承】</p>
(奥平座長)	<p>それでは、2点目についてはただ今の表現で中間評価報告書に記載する。</p> <p>続いて、3点目の説明をお願いしたい。</p>
(事務局)	<p>(資料に沿って3点目の提言を説明)</p>
(奥平座長)	<p>3点目の提言について、質問やご意見等はあるか。</p>
(池ノ上委員)	<p>先程のWhoやHowとの話とも繋がるが、観光とは、ゲストにしてもホストにしても基本的には民が活動していくものだと思う。しかし、公・官の役割も当然ある。函館では、例えばプラットフォームを作る、それぞれが持つ情報を官が集め分析し、そこからお金や投資を生み出すような仕組みを作るなど、できることは様々あると思うが、現状はなかなかないのかと思う。</p> <p>法律に則った計画であれば、国が方針を転換すると自治体の計画も変更されるが、観光基本計画は法定計画ではなく、函館市独自で策定された計画である、ただ、この計画に書かれているから行政は動けるため、どうしても基本計画を立てないと動けないと思う。しかし、この基本計画が曲者で、この計画に記載すると行政ができること以上に実施しないといけないといった義務的なものも発生してしまう。そのため、行政が頑張れといった話や行政が書いているので責任をもってやってほしいといった話が発生しているのが、今の函館の最も大きな矛盾なのかなと思う。本来、観光はそのような次元では済まないもので、そのようなアプローチのあり方では進んでいけないことを前提にした今後の取り組み体制のようなものをしっかりと見直して構築すべきではないかと思う。</p>
(奥平座長)	<p>民と公の役割をきちんと考えようという内容が書かれていると思う。この内容自体は時代の流れに沿った形でとても良いと思う。函館市には観光コンベンション協会があるが、この協会が民なのか公なのかの話にもつながる。協会の取扱いを考える道標として挙げておくのも必要かもしれない。挙げることで公・官の方から協会が切り離されることにより、独立して事業が展開できるような最終目標を立てれば、協会がDMOとなり、そして新しい観光施策をDMOが立案できるようになる方法もあるのかなと思う。他都市の事例をみると、行政の観光部門は基本的に観光協会に関係しない。観光基本計画は行政が策定するものの、策定後に実動部隊として動いているのは観光協会である。さらにその観光協会が利益を上げているところもある。利益を上げれば次の事業に進められる。そういった内容をここに記載できればと思う。</p>

(池ノ上委員)	<p>特に観光分野では、観光協会のように官と民の間を取り持つような組織、いわゆる公共政策だけに囚われない民間的動きと発想ができる組織が非常に重要だと思う。そのようなことは前提として、この内容に書くべきだとは思っている。ここでは方向性までを書いて、その後はそれを考える場を作り、議論した方が良いと思う。例えば、江差町では現在も観光協会があるが、DMOは昨年度から専従の職員を雇って立ち上げ、今年度からは民間出身の事務局長も雇って動き出している。観光協会との関係性は時間が解決する部分もあると思う。解決するまでには10年ぐらい掛かるといったところも地域の事情によってはあると思う。観光業界には大きなプライドがあり、これまでの様々な関係性もあるので、それをすべて解体して新しいものを作るといったことはやらなくても良いとなったのが江差町の方法である。ここで謳うような中間的組織というのは、いわゆる観光産業と呼ばれていた交通事業者、宿泊事業者、旅行会社だけではなく、一次産業や二次産業に関わる人も含めた観光に携わる人達を含めた仕組みが必要だと思う。</p>
(奥平座長)	<p>私が言いたいこともお話しいただいた。観光コンベンション協会や観光協会をDMOにいきなり変えるのではなく、そこにぶら下がる形で新しい組織が出てくれば良いと思う。ニーズがあればやるべきだとは思いますが、そこまで急に行く必要もないかと思う。</p>
(池ノ上委員)	<p>江差町では、ガイド協会や開陽丸がDMOに参画している。今年は自分達で収益事業を行いながら、近い将来は収益額の拡大を目指し、専従職員を雇いながら動かしていこうとしている。仕組みについては様々な考え方ができると思う。</p>
(奥平座長)	<p>いずれは自立できるような組織を作るような方向性を盛り込んでおいた方が良いと思う。今回の表現で十分意味は通ると思うが、皆様にはかにもご意見を頂戴したいと思う。</p>
(藤原委員)	<p>現在、函館観光国際コンベンション協会の法的性質はどうなっているのか。</p>
(事務局： 観光部次長)	<p>一般社団法人である。</p>
(藤原委員)	<p>法的には民となる。</p>
(奥平座長)	<p>官と民を仲立ちする観光コンベンション協会では、今後、自分達の政策を作れるかどうかの問題になってくるだろう。現在の社団法人という構造自体を変える必要はないが、中身としては函館市の観光機能のうち、政策立案や実行の部分を観光コンベンション協会に移す方法も、</p>

	<p>難しいと思うが、もしかするとあるのかもしれない。民間事業者も関係してくるので、様々な問題があるかと思うがいかがか。</p>
(渡部委員)	<p>難しいと思う。今後、具体的に進むとなったときに壁が多くあると思う。</p>
(奥平座長)	<p>壁をどう打破していくか、何もしないでいるわけにもいかない部分もある。函館市の財政もこのままの状態で行くことはあり得ないので、そうすると自主財源という話がどこかで出てくると思う。そういったところを考えると、盛り込んでおかないと次に進めないかと感じている。</p>
(藤原委員)	<p>官では予算が決まっているので、ここまでしかできないことを明確に示せば、残りは誰かが何とかしないとという話にもなり、方法の一つとしてはあるかと思う。</p>
(奥平座長)	<p>クリスマスファンタジーが官と民の棲み分けが上手くできていると思う。元々は民のみで始めたものが、途中から官も入り実行委員会が生まれたという経緯がある。そう考えるとできないことはないだろうと思う。</p>
(池ノ上委員)	<p>歴史的に見ると、函館ではそのような例は多いと思うので、それをもう少し形にしていきながら、行政は公共政策の部分をしっかり行うという考え方もある。一方で、例えば特定の事業者のみを対象とした施策は行政では難しいので、他の組織が行うという考え方もある。</p>
(奥平座長)	<p>これからの時代がどうなっていくのかという部分まで波及する大きな話がここに書かれていると考えていただいた方が良いかと思う。</p> <p>次期計画の策定に際しては、ハードルの部分を作っておき、今までにないものについても市民の底力を見せたいという様な部分を示せば良いと思う。例えば、港祭りでは、現在は行政が主導するような形をしているが、当時の財界人がお金を出して始めた経緯もあり、そういった気概があるまちである。それをもう一度思い出しましょうというのがもしかすると函館には必要なのかもしれないという表現を挙げておくのも良いかと思う。</p>
(藤原委員)	<p>そういう点では、他都市に行くと、函館は民が主導してくれるから良いねと言われる。我々が忘れていただけかもしれない。</p>
(奥平座長)	<p>市民団体がとても多いまちであることが大きいと思う。市民団体が動くと新しい行事が生まれるので、それが昔から函館のエネルギーで</p>

	<p>あり、他のまちに比べてそういうところは昔から強いと思う。行事がで き上がると全市的なお祭りに変わることもあった。</p> <p>そのようなことを考えると、現在の表現で提言としても良いかと思 うがよろしいか。</p> <p>【一同了承】</p>
(奥平座長)	<p>それでは、3点目についてはただ今の表現で中間評価報告書に記載 する。</p> <p>続いて、4点目の説明をお願いしたい。</p>
(事務局)	(資料に沿って4点目の提言を説明)
(奥平座長)	4点目の提言について、質問や意見等はあるか。
(池ノ上委員)	<p>もしかすると、観光アドバイザー会議のぶら下がりのような形で ワーキンググループを作り、そこで実務レベルの人達に集まってもら う、あるいはもう少し広く民の方達にも入ってもらい、統計的な分析を するようなことをしても良いかということではないかと思う。</p>
(奥平座長)	<p>先ほど数字の根拠という話があり、それがマーケティングの数字に なるかと思う。その数字を皆で共有し理解する場も必要かと思う。過去 の観光アドバイザー会議では、シンポジウムを開催していた。経済効果 の数字の説明もあった。シンポジウムといった取り組みも面白いかも しれない。提言案には委員会と記載しているが、こちらが出向き、市民 向けのシンポジウムを開くような方法ももしかするとあると思う。も しくは、アドバイザー会議にぶら下がる形で検討会を作り、そこで検討 した数字を観光事業者や市民の皆様へ共有する場があっても良いと思 うが皆様いかがか。この提言の内容としては、委員会とは書いているも の、啓蒙する場が必要だということだと思う。</p>
(角委員)	<p>市民の啓蒙だけでなく、市民からの意見を取入れると書いているの で、もう少し実務的な情報を交換する場の構築を意図されているのだ と思う。例えば、交通事業者間での情報交換や調整は行っているのか。</p>
(渡部委員)	<p>箱館会では、情報交換を行っているが、もう一步踏み込んだ議論は現 在は行っていない。</p>
(角委員)	<p>思い切ったことを議論しようと思うと、当事者同士で意見交換は欠 かせなくなる。そういった機会は少ないと思う。</p> <p>提言に書かれている内容は、見通しを立てながら空回りしない計画</p>

<p>(奥平座長)</p>	<p>が事業者同士で立てられる場があると良いことかもしれないとも思った。</p> <p>例えば、特定の事業者の勉強会をどんどん開催しても構わないと思う。その会を観光アドバイザー会議の下にぶら下げて、ざっくばらんに皆で検討しよう、数字を見てどうするかという話をして良いと思う。その場で意見がぶつかっても構わないと思う。そのような場は現在ないので、逆に強制的に作らないと横が繋がらないと思う。この提言は横のつながりを作りましょうという意見かと考えていた。</p> <p>となると、委員会のように硬い組織ではなく、「機会の創出」といった柔らかい表現にしてはいかがか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>提言の主題の部分については、「明確なビジョンを踏まえた施策立案のための機会の創出」とし、内容については、「それに基づく施策を立案共有していくのが良いと思う。」を、「それに基づく施策を立案共有する場の創出が必要と考える。」とし、「ただし」以降は削除することではいかがか。</p>
<p>(奥平座長)</p>	<p>そのような場を作りましょうということであるが、皆様いかがか。</p> <p>【一同了承】</p>
<p>(奥平座長)</p>	<p>それでは、提言と内容を整理した形で中間評価報告書に記載する。</p> <p>4点の提言案すべてに委員の皆様から了解が得られたので、観光アドバイザー会議の総意とし中間評価報告書に記載する。</p> <p>なお、取りまとまった中間評価報告書は、後日我々にご送付いただきたい。</p>

③その他

<p>(奥平座長)</p>	<p>それでは報告事項③について、皆様から何かあるか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>函館市観光基本計画中間評価が取りまとまったことから、今後は中間評価報告書の函館市長への手交を予定している。手交にあたっては、函館市長と委員の皆様との日程調整が大変困難になると予想されることから、奥平座長と函館市長の日程が合う日を基本とし、手交参列委員については、市秘書課との調整による参列可能人数等も勘案させていただき、中間評価報告書の公表時期等も含め、事務局一任とさせていただきたいがいかがか。</p>
<p>(奥平座長)</p>	<p>各調整を考慮して事務局一任とされたいということだが、皆様いか</p>

(奥平座長)	<p>がか。</p> <p>【一同了承】</p> <p>それでは、事務局一任とする。</p>
--------	--

3. 閉会

閉会挨拶 (観光部長)	挨拶
閉会 (事務局)	閉会